

氏名	寺 坂 律 子		
学位の種類	医 学 博 士		
学位授与番号	乙 第 1858 号		
学位授与の日付	昭和62年12月31日		
学位授与の要件	博士の学位論文提出者（学位規則第5条第2項該当）		
学位論文題目	健常日本人のベクトル心電図（パターン分類と性差、年齢差）		
論文審査委員	教授 太田善介	教授 原岡昭一	教授 木村郁郎

学位論文内容の要旨

通常健常範囲と診断されるベクトル心電図にもいくつかの形態が存在することは周知の事実である。そこでQRS環の最大ベクトルの方向、形態及び回転方向によりパターン分類し、その性差、年齢差につき検討し、ベクトル心電図の諸計測値と合わせて検討した。年齢20歳から81歳までの日本人健常成人で男子139名、女子119名の計258名を対象とし、誘導法はFrank法を用い、安静呼気位で記録した。前額面の最大QRSベクトルの方向によりA-Dの4型にパターン分類すると、ほとんどの例がB、C型に含まれ、男女とも若年者にB型が多く、高齢になるとC型が増える傾向が見られ、諸計測値のうち最大QRSベクトルの方向が加齢により水平に近づくのと一致した。さらにB、C型をQRS環の回転方向及び形態により10型に分類したが、性、年齢による差は認められず、またそれぞれの型でP、T環に差はなかった。以上よりQRS環のパターンには性、年齢による影響は少ないものと考えられた。他の諸計測値の性差、年齢差は諸家の報告と一致した。QRS環のひずみを計測し、Amplitude 0.05mV、Duration 2msec以上をQRS Bite陽性とするとその頻度は加齢により増加し、存在部位は求心脚に増加した。臨床的には明らかに健常者の条件を満たすものでも加齢に伴って潜在性の心筋の変化、小範囲の繊維化が生じている可能性が推察された。

論文審査の結果の要旨

本研究は日本人健常成人のベクトル心電図についてQRS環の最大ベクトルの方向、形態及び回転方向によりパターン分類し、その性差、年齢差につき検討したもので、その結果QRS環のパターンには性、年齢による影響は少ないことを明らかにした価値ある業績である。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。